時事新報は日本國中唯一の每日刊行新聞紙なり

時事新報

第二千五十七號
明治廿一年九月廿四日　月曜日
舊戊子八月十九日（戊戌）
日出午前五時三十一分　日入午後五時三十四分
月出午後八時零二分　月入午前八時五十一分
滿潮午前七時四十分　午後七時五十五分
（西曆一千八百八十八年）

時事新報代金の早遞便

本社今般時事新報代金送達の便を謀り內國通運會社と特約を結び來る十月一日より實行致し候に就ては同日以後左記の地方より御拂入れの新報代金は同會社の貨幣早遞便に御依托相成候得ば特別に左表の運賃より二割を引き且つ無配達賃にて送達可致候現行の郵便小爲替法にては三圓以下の金員を送達するに爲替料三錢郵券料二錢、書留料六錢都合十一錢を要する事なれ共今此の貨幣早遞便に依れば五圓以下は只四錢の運賃のみにて送達し若し送金通知書を發する場合には右の運賃に端書一葉の代金一錢を加へ憑督の費用五錢にて事足るべきに付新報代價の拂入には最も便利なる法と存候

明治廿一年九月　時事新報社

內國通運會社貨幣早遞便取扱箇所（追々箇所增設の筈）

東京	佐內町	武藏	橫濱	相模	小田原	山城	京都
尾張	名古屋	尾張	熱田	攝津	大坂	上野	高崎
上野	前橋	下野	宇都宮	加賀	金澤	下總	千葉
信濃	上田	信濃	長野	下野	栃木	岩代	若松
陸前	仙臺	岩代	郡山	岩代	福島	越後	直江津
渡島	函館	陸中	盛岡	越後	新潟	羽前	山形
讃岐	丸龜	近江	大津	陸奧	青森	石狩	札幌
下野	足利	備前	岡山	越前	敦賀	美濃	岐阜
相模	藤澤	長門	赤間關				

內國通運會社貨幣早遞便運賃表

（時事新報代金は此表より二割引を以て送達すべし）

屆金高	五圓未滿	遠近に拘はらず運賃金	五錢
同	十圓迄	同	七錢
同	十五圓迄	同	十錢
同	二十圓迄	同	十三錢
同	廿五圓迄	同	十六錢
同	五十圓迄	同	二十錢

又此早遞便に托したる金員不着の節は內國通運會社之を辨償して送出人に損毛を掛けざる定めなり

時事新報

國交際は人民の交際なり

我開國三十年來社會の事物都て舊套を脫し日々に改進の道に就くが如くなれども其實は唯舊習慣を破壞するのみにして未だ新面目を開くに至らず恰も全面の顚覆騷亂とも名く可き有樣にして宗敎の如きも無論騷亂中の物として見る可きものなれば今後その變遷の如何は識者の常に注目する所なり日本の宗敎は古來佛法にして其民心に入るや日既に久しく容易に破壞す可きに非ざれども二十年前政府の改まりしときに政治上の權を執りし者が兼て宗敎に淡泊なる士族の一流にして然かも儒流の末孫なるが故に佛法を度外視して其廢滅をも憂へざる程の氣風なりし恰も其同時に神道なるものが少しく宗旨の色を裝ひ佛法の衰に乘じて傍より之を妨ぐ無事に慣れたる僧侶は政府に友を失ふて法敵に敵を受るの姿にして大に狼狽し苦心少なからざる折柄外國の交際は維新と共に大に開けて隨て耶蘇敎の宣敎師にも渡來する者を增し是亦佛法の領地に侵入するものなれば佛法の地位ますます安からずと云ふ可し然るに近年は政府の佛法に對する氣焰も大に鎭靜し又彼れ神道も本來宗旨と名く可きものにあらざるを發明して神佛の間に軋轢も減却して內國の事情のみに就て見れば先づ佛法の小康なれども何分にも萬物顚覆の空氣中に在て國民信佛の心を維持す可きや疑なきを得ず左ればとて今日この宗敎を廢すれば全國中等以下の多數は無宗旨の人民と爲る可し經世の不利これより大なるはなし又西洋傳來の耶蘇敎は其敎師の熱心勉強と其布敎の資本に豐なるが爲め年一年に信徒の數を增して次第に盛なるが如くなれども布敎の日尙は淺くして之を佛法の廣大なるに比すれば固より見るに足らず唯前途の望は空しからざる可しと云ふ可きのみ左れば今日我國の宗敎を視るに舊來の佛法は維新の創痍に癒えて未だ其生力を回復するに至らず新渡の耶蘇敎は健全無病なれども其力を伸ばす所甚だ狹く、顧て社會の面を通覽すれば民情は頗る騷亂の中に居て其德心の歸する所を知らず此時に當り宗旨の妙法功德を以て衆生を濟度するに非ざれば後世我國の運命に於て恐る可きものあるや智者を俟たずして明なり我輩は素より敎義の正邪を知る者に非ず論ずる者に非ざれば佛と耶蘇と孰れとも輕重するに非ず唯その布敎の局に當る者が自から私德を脩めて人を導き誠意誠心以て斯民と共に未だ無宗旨の慘狀に陷らざるに救はんことこそ一大緊要事なれば能く此目的を達する者は佛耶何れにても苦しからず其勉強に一日を空ふせざらんことを祈るのみ然るに爰に不幸なるは我條約改正の談判成らずして今や我國民は現行の舊條約を守るの外に外交の道を附ざるものなれば此一事或は耶蘇宣敎の累を爲すことなかる可きやと我輩の竊に恐るゝ所のものなり抑も外國の交際を開き其交際に條約の明文を守るは理の當然にして之が爲めに何事にも影響する所なかる可きに似たれども裏面の人情は又大に然らざるものあり本來我國人が外國の人を嫌忌せずして常に之を親愛するは固有の性質にして殊に德行一偏の宣敎師の如きは其宗旨の信心論を外にしても其人の高德品行を景慕して之を尊重し、之れを尊重するの餘り時としては俗世界の條約法律に少しく違反の嫌あるにても敎師とあれば先づ之を不問に附し官も民も諸共に知らざるが如くに看過したるの事情なきにあらず例へば前年は宣敎師も居留地內に閉居したるものが近來は漸く內地に入るの方便少なからずして其これに入るや或は日本人に雇はるゝと稱し或は本人の病氣養生又は學術研究の爲めの旅行と稱し表向きの手數さへ首尾を得ればその上は自由自在に旅行し止宿し又住居し時としては盛に學校を開き會堂を建築する等殆んど隨意に運動して常に日本人民の厚遇を受けざるはなし畢竟敎師の德義の混厚高尙なると我國民の外客を親しむの情に由て然るものと云はざるを得ず殊に我日本人は條約改正の成るを近きに期し西洋諸國と對等の條約を結んで近々內外人の雜居となる可しその時には耶蘇宣敎師の內地に入るは無論の事たるが故に今にして少しく早く入るも五十步百步これを論ずるに足らず夕七時に案內したる客が六時に來るに齊しく主客の意相投すれば其時を誤りたることも却て主人の悅ぶ所なれとて一切萬事不問に附するのみならず益々我滿足を致したるものなり即是れ外國は宣敎師が今日に至るまで我日本國に於て其運動を自由にしたる內情にして啻に耶蘇敎の利益のみならず我國民もその澤に浴したることなれども如何せん政治上の組織よりして今日は圖らずも我官民共に殺風景なる條約の明文を墨守するの事情に迫られたり左れば宗旨の事は今正に日本國の大問題にして識者の最も憂る所なれども政治上の故障の爲めに遂に耶蘇の布敎にまでも多少の影響を及ぼさんとは遺憾に堪へず本來國交際とは雙方人民の交際にして政治の交は唯その交際を圓滑ならしむるに在るのみ我人民は既に外國の人を厚遇して外人も亦我れを信親し殊に宣敎師の如きは本來他心なき遠く異鄉に來りて千辛萬苦、その目的は唯この憐む可き衆生を導かんとするの一念あるのみにして我國民も其誠の在る所を知り仰で以て恩人と認むる所のものなるに政治上の間違は道德の運動と自由ならしめずして雙方人民の交際に失望を催はしたり故に我輩は飽くまでも在日本の外國人を厚遇し信親して心に留め時の情交を變改せざると共に其本國の政略に就ては聊か不平なきを得ざるものなり

雜報

○佛國前后ユーゼニー　兼てより風說ありし如く伊國皇太子が佛國前皇族レチチヤ姬との結婚は事實歟と思しく目下英國に住居する故ナポレオン三世の皇后ユーゼニーは此頃右結婚を祝する爲め寶玉の贈り物を齎し使を在伊太利のレチチヤ姬の許へ派遣せり又同后は財產の內親友及び多年給仕する召使ひに遺物として贈與するもの僅りを除き其他は殘らずルイ ナポレオン親王及びレチチア姬の二人に分與するの意ありと云ふ

○日本桑港間の貿易高　去る七月中桑港より日本に輸入したる貨物の內其最も多額なる物品は熟皮一萬千六百三十四弗、小麥粉六千零三十四弗、食料品四千六百三十九弗、鐵鑛器類四千零十三弗にして日本より桑港へ向け輸出したる內にて多額の貨物は生絲二十七萬五千百五十四弗、製茶十一萬三千百七十七弗、絹製品二萬千三百十八弗、陶器四千八百零七弗なりと其他雜貨を加へし雙方の總價格は左の如くなりと云ふ

桑港より日本へ輸入せし總金高　四萬六千四百零六弗
日本より桑港へ輸出せし總金高　六十一萬五千五百七十五弗
但し內東部通り二十一萬七千百零四弗

○米の輸出　本年八月四日より九月七日迄神戶港を經て海外に輸出したる米は神戶稅關の調査によれば其出向及び袋數、噸數左の如くなりといふ

倫敦へ十二萬四千八百八十袋、一萬四千四百五十噸
ハンバルクへ二萬二千百廿袋、二千十五噸
濠洲へ三千六百八十袋、三百三十噸
ブレメンへ一萬千二百袋、一千噸
〆一萬七千七百九十噸
但し一噸に付平均七石一斗として此石數十二萬六千三百九石

○電話機の試驗　遞信省工務局にては此程製造を竣りたるパーカー形微音電話機數十個の試驗に着手したりと云ふ

○和米煙火の折衷　橫濱太田町四丁目平山煙火製造所は數年前北米合衆國政府に乞ふて自家製造の煙火を同國內にて專賣するの特許を得販賣し來りしが今春同所の岩田茂穗氏は同國に渡航し紐育府まで屈指の煙火
店と特約を結…
路を擴張す…
出の高を增加…
棟の工場を增…
下行はるゝ…
某なる者を…
了へ歸朝し…
煙火をも發明…

○二百七十戶…
二百七十戶の…
入人の患者あ…
の爲め同縣…

○支那の耶蘇…
耶蘇宣敎師の…
にても輓近に…
吏とても耶蘇…
あれば之に…
甚だしく一…
貫洗ふが如…
しむれば糊…
れども此と…
も屆かずと…

○士官招聘…
官各五名の招…
は滿洲地方に…
築造等の計…

○菜漆の發…
茶業を以て…
の發明に係…
の將來益々…
し來りし數町…
苗を植付け…

○請負入札の…
庫より姬路…
工事請負の…
たるは明石、…
尤も明石は…
して何れも…
四日より十日…

○淸國風の…
の見本を大…
署に於て支…
良なりと云…

○農產品評…
評會を開く…
中ありと…

○三椏樹の…
杞氏は近來…
蕃殖最も急…
が蕃殖に盡…
百萬貫目米…
りと雖も未…
の二縣下は…
八萬貫目餘…
て他へ輸出…
心得の米國…
ると聞き兼…
地方を巡…